

- 4) 伸長は根部の発達に比例し、経過期間の長くなる程少い。
 5) 従来「耕作前日の浸水はその成績に大なる影響なし」(昭和8年佐藤正左右)と云う説があるが、今回の実験では之も長く浸すと大いに影響がある事を知り、尚浸水3日が即日より高率の活着を示したのは浸水の効果によるものが疑向であり、今後回を重ねて断定したい。

養苗計画とスギ、ヒノキ、クロマツ種子の实地発芽率について

鹿屋営林署 柿 水 司

役々が苗木養成計画を樹てるに當つては、次の様な式によつて、種子/1kg、1/1kg 当りの得苗標準を定めて、養苗及造林計画を樹てるのが都合がよい。

樹種	1kg 当り 粒数	効率	苗畑 発芽率	発生 本数	間引枯損 による 残存率	残存 本数	苗木		当年生山行苗		1年生山出苗	
							歩合	本数	歩合	本数	歩合	本数

この表に於て、効率及1/kg 当り粒数は、種子鑑定により、判明するので差支えないが、最も問題になるのは、实地発芽率と、間引枯損による残存率で、この数字をとれ程にするかによつて、養苗計画に大きな影響がある。

残存率は1kg 当りのまき付量と、発生数により、相当大きな間引きが出来るのであるが、まき付量が発芽率に相応した適量であれば、発生量も自ら適当なものになるから、大体の標準は知る事が出来るのである。

实地発芽率は、試験発芽による発生見込本数に対する苗畑に於ける実際の発生本数の歩合であつて、大よかな見当はついているのであるが、詳細に実査したものは極めて少いのである。

实地発芽率は、種子の良否、土性、まき付の巧拙、まき付後の天候などの関係によつて、相当大きな間引きが出来るのである。従つて養苗計画に於ては、この实地発芽率を、確実に押えておくことは、最も必要なことである。

この試験に用いた種子は、スギ、ヒノキ、クロマツ種子共、26年度当署に於て採取したものである。

調査の結果は次表の通りである。

栗地発芽率調査

樹種 又 年

A B A 倍

苗地	調査年月日	調査年月日	10 ² 当33付	10 ² 当10	Plot I	II	III	IV	V	本数合計	Plot 合計面積	10 ² 当発芽数	10 ² 当10 ² 付面積	種子幼芽	種子幼芽率	10 ² 当10 ² 付面積	種子幼芽率
坂川	22.3.12	22.5.10	25	10	100	82	96	73	103	474	0.5x5=2.50	189	3.420	2.1	3.11	3.420	60.7
			15	"	178	147	117	102	96	640	"	256	5.130	"	4.16	5.130	54.9
			20	"	217	174	137	142	168	858	"	343	6.840	"	6.22	6.840	55.1
			25	"	205	231	180	199	152	967	"	386	8.550	"	7.78	8.550	47.6
			30	"	383	275	238	218	197	1,313	"	525	10,260	"	933	10,260	56.2
			35	"	304	323	268	312	260	1,471	"	588	11,770	"	1,089	11,770	53.9
			計									2,287			4,199		54.4
鹿屋	22.3.21	22.5.13	20	10	91	101	104	116	85	497	0.5x5=2.50	198	3.420	2.1	3.11	3.420	63.6
			30	"	219	151	154	170	177	871	"	348	6.840	"	6.22	6.840	55.9
			40	"	283	284	214	333	229	1,343	"	537	10,260	"	933	10,260	57.5
			計							1,772	"	708	12,660	"	1,244	12,660	56.9
										1,791					3,110		52.5

實地松芽率調査

樹種 七 / 中

A/B

苗畑	調査年月日	調査年月日	m ² 当起付量	m ² 当起付面積	Plot I	III	IV	V	本数合計	20x20 合計面積	m ² 当起付数	m ² 当起付面積	A		B		此地松芽率 %	
													m ² 当起付数	m ² 当起付面積	m ² 当起付数	m ² 当起付面積		m ² 当起付数
坂川	29.3.12	29.5.19	20	5	934	1111			3,047	0.5x3=1.5	2,031	13,118	2.5%	2,031	13,118	3,279	25%	61.9
			30	"	767	1,327			3,888	"	2,592	17,677	"	2,592	17,677	4,919	"	52.6
			40	"	1,853	1,755			5,533	"	3,688	26,236	"	3,688	26,236	6,559	"	56.2
			50	"	1,762	1,724			5,609	"	3,739	32,775	"	3,739	32,775	8,198	"	45.6
			計								12,050					22,955	平均	52.4
鹿屋	29.3.21	29.5.19	10	4	506	350			1,274	0.5x3=1.5	747	6,334	35.3%	747	6,334	2,235	35.3%	42.4
			15	"	753	732			2,093	"	1,375	9,501	"	1,375	9,501	3,353	"	41.6
			20	"	821	1,037			2,811	"	1,894	12,668	"	1,894	12,668	4,471	"	41.9
			25	"	1,067	960			2,887	"	1,724	15,835	"	1,724	15,835	5,587	"	34.4
			30	"	1,066	1,073			3,142	"	2,094	17,002	"	2,094	17,002	6,767	"	31.2
			計								8,236					22,355	平均	38.8

實地亮勞率調査

新 檀 々 口 マ ツ

苗畑	及び付 年月日	調査 年月日	10 ² 当 採種量	採種 面積	Relat I	II	III	IV	V	本 合計	Relat 合計面積	A		B		A/B
												10 ² 当 採種数	10 ² 当 採種数	採種 面積	採種 面積	採種 面積
被川	27.3.12	27.4.30	10	10	336	308	260	241	262	1,407	0.545=25	563	788	936	738	76.2
			15	"	500	317	330	340	340	1,818	"	727	1,122	"	1,106	65.7
			20	"	492	480	719	688	548	2,909	"	1,163	1,576	"	1,475	78.8
			25	"	799	967	704	638	643	3,551	"	1,420	2,364	"	1,843	79.0
			計									3,873			5,162	平均 75